㊱三鷹中央防災公園・元気創造プラザ整備事業

受賞機関　三鷹市
独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部

キーワード　防災公園と公共施設の一体整備、運用の工夫

全建賞審査委員会の評価ポイント

三鷹市とURが連携し、老朽化した公共施設の機能更新と防災公園整備を一体的に整備した事業。

市民が通常利用しているなじみある施設を災害時に機能転換を図るため、利用方法を予め定め、市民に幅広く周知し、即座に防災機能を発揮できるよう工夫した点が高く評価された。

1. はじめに

近年、多くの地方自治体で公共施設の老朽化が問題となっている。三鷹市においても公共施設の多くが昭和40年代に整備され、これらが一斉に老朽化して耐震上の課題も抱えていた。

こうした状況下、三鷹市役所の隣接地にあった青果市場の移転を契機に、三鷹市及び三鷹市から協力要請を受けた独立行政法人都市再生機構（以下、「UR都市機構」という）は互いに連携し、三鷹市の施策である「防災拠点の整備と老朽化公共施設の機能更新」を同時に実現した。

三鷹中央防災公園・元気創造プラザ

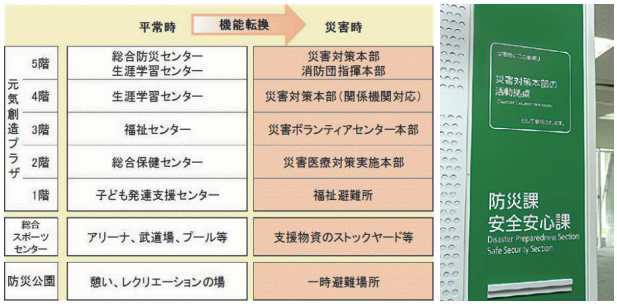
2. 事業の概要

1）事業スキーム

三鷹市の施策を実現するため、三鷹市とUR都市機構は防災公園街区整備事業を活用し、公共施設と一体的に防災拠点を整備する事業スキームを構築した。この防災公園街区整備事業は、災害に対して脆弱な構造となっている大都市地域等の既成市街地において、防災機能の強化を図ることを目的として、防災公園と周辺市街地の整備改善とを一体的に行うUR都市機構独自の事業制度である。本事業では、集約化する老朽化公共施設のうち、スポーツ施設はUR都市機構が防災公園の地下空間などを活用して立体的に整備した。そして、元気創造プラザ（防災、生涯学習、福祉、保健及び子ども発達支援等の機能を有する施設）は、三鷹市が事業主体となってUR都市機構へ整備を委託し、これらすべてをUR都市機構が一体的に整備した。また、これらを一つの建築物として合築したことにより、単なる防災公園と公共施設ではなく施設全体で防災拠点を形成させた。

2）災害時の機能転換

過去の大災害において、防災施設が設置されていたにも関わらず利用方法を市民が熟知していなかったために防災機能が十分に発揮されなかったことがある。この事実を踏まえ、平常時はスポーツなどで市民に日常利用されている施設を災害時に防災拠点へ機能転換する仕組みを構築した。これは平常時の利用施設と災害時に機能転換する仕組みを日頃から各施設に表示するなどにより市民へ周知を図っている。これにより、市民に親しみ馴染みのある施設が災害発生時に市民・職員によって防災拠点化され、即座に防災機能を発揮できるよう工夫している。



災害時の機能転換・機能転換の案内

3. 事業の成果

三鷹市とUR都市機構は、本事業によって「防災拠点の整備と老朽化公共施設の機能更新」という２つの施策を実現した。このような施策は全国の地方自治体にも共通する課題である。そのため、条件が整えば同じ課題を抱える他の地方自治体にも本事業スキームが応用できると考えられる。

4. おわりに

この施設は平成29年４月にオープンして以降、多くの三鷹市民の方々に利用されている。その一方で、この施設が本当の力を発揮するのは災害発生時である。その日が来ないことを切に願うとともに、末永く愛される施設であり続けるよう願っている。